

シラバス

教科【 国語 】 科目【 現代の国語 】

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
国語	現代の国語	2	1	普通	必履	新編現代の国語(数研出版)

1 学習目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を養い、確かな国語力を育成することを目標とする。その実現のために、言葉を理解し、言葉を通して社会と関わる態度を養うこと。論理的思考、適切な伝え合いのために必要な、思考力・判断力・表現力を身につけさせること。現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育むこと。以上を実践することで目標達成を目指す。

2 学習評価規準

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っているか。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしているか。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとするとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしているか。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	評論の読み方 書き手の意図をつかむ	コラム(評論文の読解とは?) 「目指す世界の地図を作る」 鴻上尚史	
	文章の展開を把握する	「時間とは何か」 池内了	
	要点を聞き取る	目的に応じて情報を聞き取る	
	情報を聞き取る	文章の構成を工夫して提案する	
	情報を整理する	必要な情報を整理して書く	
	書式を踏まえて書く	文章の構成を工夫して提案する	
	対比を読み取る	「水の東西」 山崎正和 「里山物語」 日高敏隆	
	指示語・対比	コラム(評論文を読むヒント1・2)	
後期	コミュニケーションと言葉	「世間話はなぜするか」 松井智子 「非言語コミュニケーション」 末田清子	
	話し言葉の技術	スピーチ ディベート・討議 プレゼンテーション	
	言葉の働きをとらえる	「語感トレーニング」 中村明	
	書き手の考えを比較する	「科学と非科学」 中屋敷均	
	書き言葉の技術	文章構造を理解する 要約する 比較する 意見文を書く	
	根拠を読み取る	「『差』という情報」 佐藤雅彦	
	日常の中の文章	写真を文章で説明する 広告コピーを書く 表現の工夫を読み取る(新聞)	

4 学習の留意点

・授業態度、発表、提出物、小テスト、定期考査の成績等、総合的に評価する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
地理歴史	歴史総合	2	1	普通科	必修	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)

1 目標

世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ纏める技能を身に付けるようにする。

2 評価の観点

知識・技能	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在との繋がり等に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したりすることが出来る。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることが出来る。
主体的に学習に取り組む態度	・近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・より良い社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習への繋がりを見い出そうとしている。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	・近代日本の形成と19世紀の社会	・文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革にともなう社会・文化の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代国家の形成について理解する。 ・条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目して我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解する。	
後期	・近代日本の歩みと国際関係 ・第二次世界大戦の日本と世界	・政党政治の展開と大衆文化の形成、資本主義の発達と国民生活の変化、第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結にいたる内外情勢の変化について、国際情勢に留意し世界的視野から考察する。 ・第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立など、我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立について考察する。 ・70年代以降の世界経済の変容、東西関係の変遷と冷戦体制の終結などを中心に概観しながら、現代世界の動向と日本の課題及び役割について学習する。	

4 学習の留意点

ノート、ワークシート、課題、レポートなど学習への取り組み、小テスト、単元テスト、前期中間考査、前期期末考査、後期中間考査、学年末考査を基に総合的に評価する。

令和7年度 シラバス

教科【 数学 】 科目【 数学 I 】

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
数学	数学 I	3	1	普通	必修	新 高校の数学 I (数研出版)

1 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 評価の観点

知識・技能	・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間に着目し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の現象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	数と式	・数と式の計算 ・1次不等式	
	2次関数	・2次関数のグラフ ・2次関数の値の変化	
後期	図形と計量	・三角比 ・三角形への応用	
	集合と命題	・集合と命題	
	データの分析	・データの分析	

4 学習の留意点

ノート、ワークシート、課題、レポートなど学習への取り組み、小テスト、単元テスト、前期中間考査、前期期末考査、後期中間考査、学年末考査を基に総合的に評価する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書（出版社）
理科	科学と人間生活	2	1	普通	必修	高等学校 科学と人間生活（第一学習社）

1 目標

・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。

・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。

・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。

2 評価の観点

知識・技能	・科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。 ・また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。
思考・判断・表現	・身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
主体的に取り組む態度	・身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	序章 科学技術の発展	1. 情報伝達技術の発展 2. エネルギー資源の活用と交通手段の発展 3. 医療技術の発展	各章ともに2つの節のうち1つの節を選択し、それぞれ学習する。
	第Ⅰ章 物質の科学	第1節 材料とその利用 第2節 衣料と食品	
	第Ⅱ章 生命の科学	第1節 ヒトの生命現象 第2節 微生物とその利用	
後期	第Ⅲ章 熱や光の科学	第1節 熱の性質とその利用 第2節 光の性質とその利用	各章ともに2つの節のうち1つの節を選択し、それぞれ学習する。
	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学	第1節 自然景観と自然災害 第2節 太陽と地球	
	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活	課題の研究・調査、プレゼンテーション	

4 学習の留意点

ノート、ワークシート、課題、実験レポートなど学習への取り組み、小テスト、単元テスト、定期考査を基に総合的に評価する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
体育	体育	2	1	全学科	必履修	現代高等保健体育(大修館)

1 目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 評価の観点

知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	体づくり運動	● 体づくり運動(体ほぐしの運動 / 実生活に生かす運動の計画) ※ 新体力テストを含む	
	選択Ⅰ	● 選択Ⅰ(球技:バドミントン) ※ 球技(ネット型)	
	選択Ⅱ	● 選択Ⅱ(陸上) ※ 陸上(持久走)	
	体育理論	● スポーツの発祥と発展 ①スポーツの始まりと変遷 ②文化としてのスポーツ ③オリイピックとパラリンピックの意義	
後期	選択球技Ⅲ	● 選択Ⅲ(球技:ミニバレーボール) ※ 球技(ネット型)	
	選択球技Ⅳ	● 選択Ⅳ(球技:卓球・フットベースボール) ※ 球技(ネット型・ベース型)	
	体育理論	● スポーツの発祥と発展 ④スポーツが経済に及ぼす効果 ⑤スポーツの高潔さとドーピング ⑥スポーツと環境	

4 学習の留意点

授業観察、ノート・ワークシート、課題レポート、小テスト、単元テスト、考査等を基に総合的に評価する。

令和7年度 シラバス

教科【 保健 】 科目【 保健 】

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
保健	保健	1	1	全学科	必履修	現代高等保健体育(大修館)

1 目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。

2 評価の観点

知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	1単元 現代社会と健康	01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復	
後期	1単元 現代社会と健康	15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境作り	
	2単元 安全な社会生活	01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成交通における安全 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法	

4 学習の留意点

ノート、ワークシート、課題、レポートなど学習への取り組み、小テスト、単元テスト、前期期末考査、学年末考査を基に総合的に評価する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
芸術	美術Ⅰ	2	1	全科	必修	美術1(光村図書)

1 目標

美術の3つの大きな柱となる絵画、彫刻、デザインの各領域の造形的基礎力を学ぶ。また美的感性や発想力、構想力を養い、個性的でより豊かな表現力を身につける。

2 評価の観点

知識・技能	様々な芸術作品や美術史について関心を持ち、知識と理解を深める。
思考・判断・表現	自分の作品について客観的に評価することができるか。感性や創造力を働かせて、創造的な表現の構想を行うことができるか。創造的な表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表しているか。
主体的に取り組む態度	美術表現、鑑賞に関心を持ち、意欲的に表現活動に取り組み、主体的に考える姿勢で課題に臨んでいるか。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	デッサンを学ぶ	・対象をよく観察し、いきいきとした表現を目指す。 ・クロッキーとデッサンの違いを知る。	
	色彩の基本を学ぶ	・鉛筆の使い方を工夫し、グレーの段階を生かして描く。 ・色の属性(色相・明度・彩度)や混色について学ぶ。	
	デザイン、 平面構成を学ぶ	・直線と曲線によるデザイン。アクリル絵の具彩色。 ・アクリル絵の具の特性と使い方を学ぶ。 ・鑑賞を通してデザインの意味、分野、用語について知る。	
後期	版画(木版画)	・浮世絵の技法に習い、彫る。 ・彫刻刀に慣れ、正しい使い方を身につける。	
	木彫 自然物の模刻	・立体造形の基本を知る。 ・デッサンを行い、自然物の構造を理解し制作する。 ・生命の証であるフォルムを感じ、考察する。 ・工具、道具の正しい使い方を身につける。	

4 学習の留意点

各時間に提出した「作品」や、制作過程や感想文などの「提出物」、学習活動への参加状況(出席状況、学習態度、意見発表等)をもとに、総合的に判断する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
芸術	書道Ⅰ	2	1	全科	必修	書道Ⅰ(東京書籍)

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 評価の観点

知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
主体的に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	書写から書道へ 漢字の書	書写で学んできたこと コラム:用具・用材の製造方法 用具・用材 姿勢・執筆法 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書、行書、草書、隸書、篆書 創作・鑑賞	
後期	仮名の書 漢字仮名交じりの書 篆刻 資料	仮名の成立 仮名を書く準備 平仮名の単体 変体仮名 連綿 「蓬莱切」、「高野切第三種」、「関戸本古今和歌集」 漢字仮名交じりの書の変遷 表現を比べよう 表現の工夫 創作・鑑賞 篆刻と落款 創作・鑑賞 書道用語200 書道史略年表 書を見に行こう 鑑賞の言葉を広げよう	

4 学習の留意点

各時間に提出した「作品」や、制作過程や感想文などの「提出物」、学習活動への参加状況(出席状況、学習態度、意見発表等)をもとに、総合的に判断する。

シラバス 教科【外国語】科目【英語コミュニケーションⅠ】

教科	科目	単位数	学年	コース	区分	使用教科書（出版社）
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	1	普通	必修	All Aboard! English CommunicationⅠ（東京書籍）

1 学習目標

1. 日常的な話題について、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
2. 日常的な話題について、英語で聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝えることができる。

2 学習評価規準

知識・技能	外国語の音声や語彙・表現・文法・言語の働きなどについて理解を深め、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことにおいて、目的や場面・状況などに応じて適切に使用できる技能を身につけている。
思考・判断・表現	目的や場面・状況に応じて、日常的・社会的な話題について、外国語で概念や要点を理解できる。話し手や書き手の意図を理解でき、また適切に表現できる。
主体的に学習に取り組む態度	文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションをはかろうとしている。

3 学習計画と学習内容

	学 習 項 目	学 習 内 容	備 考
通 年	Lesson 1 Breakfast around the World	世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 （動詞の過去形）	
	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 （現在進行形）	
	Lesson 3 A Train Driver in Snriku	被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 （助動詞）	
	Lesson 4 A Miracle Mirror	海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 （to不定詞）	
	Lesson 5 Learning from the Sea	高校のユニークな部活動を通して、今好きなことよ将来の夢について考える。 （動名詞）	
	Lesson 6 A Funny Pictures form the Edo Period	江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 （受け身）	
	Lesson 7 A Diary of Hope	アンネ・フランクの生活と彼女の日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。（比較表現）	
	Lesson 8 A Door to a New Life	ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。（現在完了形）	
	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 （名詞を修飾する分詞）	
	Lesson 10 Pigs from across the Sea	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。（関係代名詞）	

4 学習の留意点

各考查の成績、ワークシートなどの提出物、発表、出席状況、授業への取り組みの姿勢や学習への意欲などを総合的に評価する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書(出版社)
家庭	家庭総合	2	1	普通	必修	未来へつなぐ家庭総合365(教育図書)

1 目標

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点

知識・技能	自立した生活を営むためには、生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、責任をもって行動することが重要であることを理解させる。食生活を充実させ、向上するために必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につける。被服管理に必要な基礎的・基本的な技術を身につける。
思考・判断・表現	人の一生、男女参画社会、家族、高齢者、食生活、消費生活等学ぶことにより自身のおかれた生活の課題に主体的に取り組めるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	高齢者の心身の特徴・生活を通し一家族のかかわり福祉看護に興味を持たせる。食は調理実習を通し栄養必要量を知る。

3 学習計画と学習内容

	学習項目	学習内容	備考
前期	生涯の生活設計	・人は一生発達する ・これからの人生に何が起こるか	
	青年期の自立と	・人生の課題を解決しよう	
	家族・家庭	・あなた自身を知ろう ・5つの自立 ・家族を築くこと ・現在の家族を取り巻く状況 ・男女共同参画社会 ・これからの家族と社会 ・人生や家庭生活で困ったときは	
	子供の生活と保育	・子供の成長の特徴 ・親の役割 ・生活習慣と子供の生活 ・子育てを支える仕組み	
後期	高齢期の生活と福祉	・高齢者とは ・高齢期の心身の変化 ・高齢者の健康、生活 ・高齢者との交流 ・高齢化の現状 ・超高齢化社会の課題 ・共生社会って何だろう ・リスクに備えよう ・ノーマライゼーションの考え方	
	共生社会と福祉	・ライフステージにあった食生活 ・栄養素と食品	
	食生活と健康	・食中毒と安全 ・主食、主菜、副菜、汁物、甘味 ・私たちの食生活と環境 ・食文化の継承、未来の食生活	

4 学習の留意点

学習活動への参加状況(出席状況、学習態度、意見発表等)やファイルや課題の提出、実習時の態度と取り組む姿勢をもとに、総合的に判断する。